

# 「加須の木遣り」

38

市指定無形民俗文化財  
平成24年3月6日指定



問合せ  
生涯学習課  
(☎内線352)



所在地 東栄2-6-13  
(加須木遣り保存会 代表事務所)

今回、ご紹介するのは「加須の木遣り」です。

木遣りの発展には諸説ありますが、室町時代に京都を発祥の地として関西方面で発達したと言われています。元々は労働歌で、大勢で木材などの重量のある建築用材を挽くときに、息を合わせるため歌われる「木挽き」と、家の造成のときに土台固めをする「地形木遣り」があります。このうち、「地形木遣り」は江戸を中心に発達したもので、加須の木遣りもこれにあたるものと思われまます。

江戸において木遣りは、町火消しを担った鳶職の人々により伝承されていくようになり、祭礼のと

きや祝い事のときにも歌われる祝儀歌となっていました。  
加須の木遣りは何代もの人々の口伝により、指導する人の好みや声量などにより定着したものと考えられます。

木遣り唄には「まなづる」「てこ」「つりかけ」「とびかけ」「かけつか」「こしゃく」などがあります。

現在、加須の木遣りは加須鳶組合の加須木遣り保存会によって、大切に守り伝えられています。出初式や總願寺の節分会のときには、木遣り唄、纏振り、はしご乗りの構成で行われています。そのほか、結婚式などの祝い事のときにも行われています。

埼玉県内でも木遣りが残っている市町村は少なく、江戸時代から伝わる貴重な文化となっています。



旧加須市役所旧庁舎前での出初式

紹介者 雨笠 竹夫さん(東栄)